

美術科教育学会通信 No.63

2007年2月14日発行

通信事務 代表：〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748番地

鳴門教育大学芸術系（美術）講座 橋本泰幸研究室 / Tel. & Fax. 088-687-6481 / E-mail : hasimoto@naruto-u.ac.jp

企画・編集：山木朝彦 / Tel. & Fax. 088-687-6485 / E-mail : yamaki@naruto-u.ac.jp

編集レイアウト：山田芳明 / Tel. & Fax. 088-687-6636 / E-mail : yyamada@naruto-u.ac.jp

企画協力：山田一美（東京学芸大学） WEB版：谷口幹也（九州女子大学）

「第29回美術科教育学会金沢大会の開催に向けて」

第29回美術科教育学会金沢大会実行委員会会長

鷺山 靖（金沢大学）

私事ではありますが、昨年末に東地区会と西地区会の研究会に参加いたしました。東地区会は「つくる活動と創造的工作のゆくえ」、西地区会は「“三十歳” 目前の「造形遊び」を磨く」が主題でした。「工作」や「造形遊び」の素晴らしさを再認識する実践報告が行われると共に、資料や意見交換の場では「不振」といった時流を表す言葉が発露していました。これら2つの研究会に参加して、図画工作科の屋台骨の一つである「工作」と「造形遊び」を虚像のように感じたのは、私だけでしょうか。参加者全員が、図画工作科教育が長期に渡り抱える問題とその危機を共有した研究会でした。こうした問題は、美術教育制度の運用上の問題なのでしょうか。

第19回鳴門大会（1997）が主題「図工・美術科教育の危機と美術教育研究の課題」を掲げて10年経過しようとしています。私たち美術科教育学会は、文部科学省へ2005年11月に教育課程における美術教育の発展に向けて請願書を提出しました。図画工作科・美術科・芸術科美術・芸術科工芸は、制度上だけでなく、実践場面においても危機に瀕していることは、紛れもない事実です。こうした危機的状況と私たち会員各自の教育や研究の領域は、何らかの接点で密接に関わっています。美術科教育学会大会における口頭発表の一つの傾向は、鑑賞教育研究の増加です。第19回鳴門大会（1997）における鑑賞に関する口頭発表は4件（全体の約8%）、第24回鳴門大会（2002）は11件（全体の約23%）、第28回京都大会（2006）は20件（全体の25%）。こうした動向は、研究課題の趨勢を表しています。

「工作」と「造形遊び」の不振、鑑賞に関する口頭発表の増加は、それぞれ美術教育と研究の＜流行＞の一端であるとともに、「観る」「生む」といった美術教育の＜不易＞に関する根源的な研究課題として捉えられるでしょう。第29回美術科教育学会金沢大会は「美術教育研究の不易と流行」を主題に開催します。この主題は、第28回京都大会の主題「変革の時代と美術教育」と石川誠氏（第28回京都大会実行委員長）の「ここで、一度原点に帰るということを試みたい」（学会通信No.57）との思いを継承するものです。

会員諸氏の美術教育の＜不易＞と＜流行＞に関する様々な口頭発表を願い、美術教育研究の広がりや充実を目指します。

第 29 回美術科教育学会 金沢大会【第 3 次案内】

美術科教育学会 金沢大会事務局代表 鷺山 靖（金沢大学）

金沢大会は 3 月 25 日（日）、26 日（月）に金沢大学教育学部で開催いたします。

大会テーマは「美術教育研究の不易と流行」です。

学会の原点を大切にします。口頭発表の申込と発表概要原稿提出の締切日をできる限り大会開催日に近づけました。奮ってご発表下さい。

学術講演を開催いたします。講師は嶋崎丞（しまさき すすむ）氏（石川県立美術館長・石川県文化財保存修復工房所長・石川県七尾美術館長）、演題は「加賀のものづくり」です。

どうぞ、早春の金沢においで下さい。皆様のご参加をお待ち申し上げます。

■会期：平成 19（2007）年 3 月 25 日（日）～26 日（月）

■会場：金沢大学教育学部（JR 金沢駅東口 93, 94, 97 番バス乗車、「金沢大学」バス停下車）

■大会テーマ：「美術教育研究の不易と流行」

■日程（予定）：口頭発表の申込数によって、若干変更いたします。

3 月 25 日（日）午前：新旧理事会 午後 12 時 30 分から参加受付

午後 1 時 00 分から 4 時 40 分まで（開会行事，研究発表，学術講演）

午後 5 時 00 分から（懇親会）

3 月 26 日（月）午前 9 時 00 分から（研究発表・総会）

■研究発表申込：通信 No. 61, 62 に同封の案内書一式をご覧ください。

<http://www.ed.kanazawa-u.ac.jp/~washi/> からもご覧になれます。

・申込方法：申込書，返信用封筒（長形 3 号，2 枚），返信用ハガキ（1 枚）を下記宛に郵送。

・申込締切日：平成 19（2007）年 2 月 2 日（金）必着

・郵送先：〒 920-1192 金沢市角間町 金沢大学教育学部美術教室

第 29 回美術科教育学会金沢大会事務局 鷺山靖

■参加申し込み方法 <http://www.ed.kanazawa-u.ac.jp/~washi/> からもご覧になれます。

通信 No. 62 同封の「郵便振替払込票」にて、参加申し込み及び参加費・懇親会費の払い込みをお願いします。必要事項（用紙が不足する場合は同内容）をご記入の上、お振込下さい。参加費は 5000 円，懇親会費は 4000 円（学割 2500 円）です。

・口座番号：00780-2-94067（右詰） ・口座加入者：美術科教育学会金沢大会事務局

・通信欄：振込金額内訳口にレ印を，所属，住所，氏名（フリガナ）をご記入下さい。

・参加申し込み期限：3 月 15 日（木）

当日受付も行いますが、大会運営上、できるだけ事前にお申し込み下さい。

また、3 月 15 日以降は口座に振り込まず、当日、受付にてお支払い下さい。

■情報交換の場：会場に展示コーナーを設けます。会員の出版物や情報発信に、ご希望の方は 1 月末までに開催事務局へご相談下さい。法人は有料とさせていただきます。

■宿泊等：事務局では扱いませんが、大学生協で紹介します。通信 No. 62 同封の別紙案内書または下記 URL のサイトをご覧ください。

※連絡・問合せ先 E-mail washi@ed.kanazawa-u.ac.jp（鷺山）TEL 076-264-5584（鷺山）

※ 電話による連絡・お問い合わせはできる限りご遠慮ください。

※ 大会案内については <http://www.ed.kanazawa-u.ac.jp/~washi/> もあわせてご覧ください。

美術科教育学会選挙管理委員会報告

開票結果と開票結果報告会

選挙管理委員会委員長 山田一美

去る8月26日、本年度第一回定例理事会において、学会役員改選選挙に向けての選挙管理委員長の選出と選出規定等の協議が行われました（学会通信 No.61 参照）。その後、選挙管理委員会を発足させ、投票用紙の発送、開票、選出理事に対する開票結果の報告を行いましたので、その概要を会員のみなさまにご報告致します。なお、選挙管理委員は次の5名です。山田一美（委員長）、岡崎昭夫（前委員長）、仲瀬律久（理事）、新井哲夫（理事）、相田隆司（正会員）

1. 投票用紙の郵送

2006(平成18)年10月11日、会員578名(2006年8月31日現在のもの)に対して投票用紙を郵送。内訳は国内会員574名、国外会員4名(大韓民国2, 中華民国2)。投票の締切日は、2006(平成18)年11月10日(金)消印有効である。

2. 開票結果

開票日時：2006(平成18)年11月18日(土)午後1:30～7:15

開票会場：東京学芸大学美術教育演習室

出席者：選挙管理委員全員(5名)

投票用紙の郵送総数578通のうち、宛先不明による返送分29通を確認して除き、次に投票総数158通(578通郵送, 27.3%)を確認した。ちなみに、前回2003年選挙は、投票総数167通(27.8%)であった。投票総数158通の中から投函の締切り期日を過ぎたもの及び8名以上の記載のあるもの計7通を除き、最終的に151通を有効投票として認定し、得票数の集計作業に入った。集計は複数人により2回行い、理事選出規定に基づき15名を選出し当選者を確定した。最後に、立会人仲瀬律久理事の承認と署名を得て開票を終了した。11月20日、委員会は当選理事に「当選通知」を郵送し、新理事就任の要請に対する受諾通知を15名全員から受理した。この度の選挙で選出された理事は次の方々である。(あいうえお順, 15名)

新井哲夫, 板良敷 敏, 岩崎由紀夫, 岡崎昭夫, 金子一夫, 花篤 實, 柴田和豊, 直江俊雄, 仲瀬律久, 長田謙一, 永守基樹, 橋本泰幸, 福本謹一, 藤江 充, 山田一美。

3. 開票結果報告会

選挙管理委員会は開票結果を報告するため、選出理事を招集した。日時は、2006(平成18)年12月26日(火)午後1時～4時30分、場所は東京学芸大学である。出席者は13名(公務欠席2名, 選挙管理委員長・前選挙管理委員長を含む)。選挙管理委員長による開票結果の報告会終了後、続いて選出理事による会合が開かれた。ここで、次期学会代表理事及び補充理事の選出等について討議され、次期学会代表理事として藤江 充氏(愛知教育大学)が互選された。また、副代表理事及び補充理事等の選出については、藤江氏に一任された。

報告 第14回東地区会<美術教育フォーラム in 東京学芸大学>

日時：200612月2日(土) 14:20～16:45
会場：東京学芸大学創立20周年記念飯島会館
テーマ「つくる活動と創造的工作のゆくえ」



はじめに、副代表理事の増田金吾さんから美術教育の今日的な課題や方向に触れた挨拶をしていただき、第Ⅰ部の実践報告、第Ⅱ部のパネル・ディスカッションへと進んだ。

第Ⅰ部で多摩市立北貝取小学校の岩崎裕さんは、「動く仕組み」(4・6年生)の実践を中心に、恐竜などが動く装置を使った作品や東南アジアの民芸品の原理を用いた作品を、ビデオ映像を使って紹介された。次に、学芸大学こども未来プロジェクト研究員の山田修平さんは、つくる活動と遊びに関わる実践を紹介。プロジェクトは大学と(株)おもちゃ王国による産学共同研究事業の一つ。山田さんは発達や社会性を学ぶうえで欠かせない遊びに着目し、質の高い題材の開発と指導法を研究中。「新聞紙でつくる構造体」(新聞紙を細く丸め、構造材をつくり、立体に構成していくワークショップ)などを報告。最後は、ものづくり大学製造技能工芸学科(平井研究室)3年在籍中の吉田香織さんによる「教育教材のためのループ・ゴールドバーグマシン」の報告。吉田さんは、フジテレビで放送中の「めざましテレビ」の企画アドバイザーとして活動中。このマシンの製作が「モノをつくるために必要なプロセスを効率的に学習する」のに大いに役立つことをあげ、学校教育においてつくる活動への可能性を示唆した。

第Ⅱ部は、佐藤賢司さん(大阪教育大学)、鷺山 靖さん(金沢大学)、宮脇 理さん(東地区会統括理事)の三氏によるパネル・ディスカッション。工作・工芸・つくる活動、ものづくりをベースに、過去・現在・近未来を見据えて発言していただいた。以下、前半のみの紹介。佐藤賢司さんは、美術教育への広がりや視点や、美術の教員養成に関わる絵画・彫刻・デザイン・工芸・鑑賞という区分の妥当性、デザインや工芸の独自性の検討を通して、様々なねじれが工作や工芸を考えるうえで困難な状況を生み出していることを指摘する。造形遊びがもつ身体感覚を外化させていくプロセスと、具体により世界を成立させる工作・工芸との共通性を見すえ、工作や工芸で実現される意図や営みが美術教育全体を拡大していく大きな力となる可能性を、またその枠を拡大していくことの意味を論じられた。

鷺山 靖さんは、「神なき知育は知恵ある悪魔をつくる」という言葉を引用し、学校が悪魔を育てる場とならないよう工作・工芸のあり方を提唱。科学的・芸術的・哲学的側面からの検討を踏まえつつ、「動く」「仕組み」などを学習指導要領の変遷を分析し、昭和43年をピークに授業で取り上げられにくくなる経緯を指摘。また、大学での授業「牛乳パックカー」を披露し、前半の報告とリンクさせて、工作とゴールとの関係、条件や目的などに話がふくらんだ。

宮脇 理さんは、「つくる活動や学習」の基点を取り上げる。ルードリッヒと同時代の北ヨーロッパの工作教育、「責任の持てる教育」の原点、「つくる教育」に着目したフィンランド、そしてウノ・シグネウス。そこには「責任の持てる教育」があり、「フォーク・クラフト」があった。手渡しの教育、長い年月をかけてつくりあげる教育には、いろんな要素が入り込む。忍耐、自立心、体力、思考力。子どもはものをつくりながら、知らず知らずに、高まるハードルを自らクリアしていく。学校教育は、責任の持てるものを媒体にしない限り解体してしまう、と説得力ある論説を展開された。

(文責：東京学芸大学 山田一美)

報告 第12回西地区会<研究発表会 inOsaka >

W&E
I

日時：2006年12月23日(土) 12:20～17:50

会場：大阪教育大学天王寺キャンパス中央館 2F215 大講義室 B

テーマ「〈30歳〉目前の「造形遊び」を磨く－Do(行為), 現在性, 出会いと陶冶」

2006年末、北海道から九州まで71名の有志を得て西地区会を開催した(文科省奥村高明教科調査官も一般参加)。花篤實氏(西地区会統括理事)の挨拶の後、第I部では<先達へのロング・インタビュー>として、三澤正彦氏(大阪市立南小校長)と今西榮氏(門真市立北巢本小教頭)を招き、1960年末から70年代にかけての画像(池水慶一氏とThe Playの活動、劇団維新派、Doの会教育実践など)を交えて、若き日の実践、美術教育行政などについて語っていただいた。

第II部では、<各校種教員として日々感じている思いからの考察>として4人の発表を持った。宇田は、「第5回西地区会<研究発表会 in 奈良>の成果と「造形遊び」に対する<批評的論述>」と題して、学習指導要領上の「造形遊び」の定義の確認、那賀貞彦、金子一夫両氏の批評的論述をふまえた“彫琢”項目の提示をした。岡田陽子氏(河南町立石川小)は、「「造形遊び」をふりかえる」と題して、小学校での図工科実践と中学校の選択授業や地域での取り組みを紹介しながら、その長所や小中連携のあり方について述べた。人見和宏氏(津市立栗津中)は、「中学校美術教育に生かす造形遊びのエッセンス」と題し、その特徴を分析し、中学校での題材を紹介しながら、具体的な生かし方について述べた。吉田貴富氏(山口大)は、「振りすぎた振り子－図画工作科(美術教育)を脱構築した(するはずだった?)造形遊びを脱構築する」と題し、現状の整理、高学年拡充の問題、大学での対応、今後に向けての提案などについて発表した。

発表の後、指定質問者の尾西啓充氏(生駒市立生駒南第二小)、十林真紀子氏(和歌山市立有功中)、竹本封由之進氏(大阪大谷大)及びフロアーからの質問・意見をふまえて、討議会を持った。現状認識、評価、小中連携、興味・関心と基礎・基本、子どもと教師の意識、領域化、ダイナミズムなどについて、予定時間を超過しての活発な意見交換が行われ、最後に、福本謹一氏(兵庫教育大)が、まとめと今後の展開を示唆した。活発な意見交換がありながら、司会の不手際で十分に整理できなかった部分については、今後の記録作成でカバーしたいと考えている。

*当日配布した『概要集(A4版全82頁)』の残部があります。送付希望の方は、以下のものを同封し、宇田まで申し込み下さい。1. 現金800円(概要集一冊分) 現金書留でなくてよい(少し厚手の紙を2つ折にし、その中にテープで硬貨を固定し、普通郵便やメール便などで、どうぞ)。2. 概要集送り先の<郵便番号, 住所, 氏名>を明記した紙。<申込先> 630-8528 奈良市高畑町 奈良教育大学 美術科教育第2研究室 宇田 秀士

文責：宇田秀士(コーディネーター/奈良教育大学)



写真左：会場の様子

写真右：研究発表者

(左から岡田, 人見,
吉田の各氏)

美術科教育学会 研究部会の活動報告(1)

今号から二回に分けて、美術科教育学会の研究活動の促進のために設置されている各研究部会の活動について各部会を代表する学会会員にご報告いただきます。今回は、「工作・工芸領域部会」と「アートセラピー研究部会」についての報告です。報告された各部会の活動内容に関心をお持ちの方は、部会代表に今後の活動予定や入会の方法についてお問い合わせください。

●工作・工芸領域部会活動報告

部会代表：西村俊夫（上越教育大学）

工作・工芸領域部会は「工作・工芸教育そのものの問題は勿論のこと、様々な工芸分野の専門領域や、現代の工芸の問題、或は工作・工芸をめぐる環境などの多様な視点の問題を、工作・工芸教育に関わるものとして考えていくことを目的」として設立した。部会の名称に「教育」の言葉が入っていないのは、多様な工芸に関わることを前提にしていること、そして教育の問題を教育の内部だけで語るのではなく、「外部」の視点からも問題としたかったからである。そのため、あまり対象領域を限定せずに、様々な見解を自由に交わせる場として、長く活動していける部会づくりを目指してきた。主な活動としては「部会通信」の発行と情報交換を行ってきた。「部会通信」は諸般の事情により現在発行を休止している。

昨年の美術科教育学会京都大会のコロキウムで「工作・工芸の視点からこれからの美術教育を考える」というテーマで、部会員の基調報告をもとに部会発表を行った。このコロキウムで「美術」、「工作」、「工芸」という概念の再考を行い、さらにこれらの概念の「周縁」や「外側」から見えてくるこれからの美術教育のすがたについて考えた。多くの意見が寄せられ工作・工芸分野に対する期待が大きいことも、また課題が大きいこともわかった。今年度は、昨年の部会発表のテーマについて継続的に研究活動を行い、年度内に研究会を開催する予定である。

●アートセラピー研究部会の活動報告

部会代表：長谷川哲哉（和歌山大学）

2002年に設立された本研究部会は、これまで年一度研究会を開催し、部会通信を年一回発行してきた。また春の学会研究大会では研究部会に発表の場が与えられることもある。ちなみに2006年3月の京都大会では各「研究部会コロキウム」が開催され当部会もコーナーを設けた。部会通信は第5号までを発行している。4号（05・3・31発行）は8頁、5号（06・6・30発行）は16頁で充実した内容を誇っている。2006年度の研究会は福岡教育大学で9月16日に開催され、そのメインは同大の宮田正和教授（心療内科・臨床心理士）による「アートセラピーに関する特別講義とワークショップ」であった。3時間以上に及び参加者も20名を越えて盛況であった。その内容は、1. アートセラピーの概念・歴史・効果の概説、2. アートセラピーとしての箱庭療法やコラージュ療法の理論と実際、3. 参加者による箱庭療法の体験的実践、以上であった。体験者は自己自身の精神の状況や傾向を知るきっかけを得た。アートセラピー研究部会は来年度も夏季に開催を予定している。

<☆知っておこう！ヨーロッパの絵，とくに宗教画というのは，「読書感想画」，つまり，「お話の絵」です。だから，お話を知っておけば絵のことがよくわかります。そこで，このマル秘資料をもとに，展覧会へ行く前に，聖書のお話を知っておきましょう。1. オギヤー，オギヤー!! イエスが生まれました。お母さん＝マリヤ，お父さん＝ヨセフ（でも，聖書にはほんとうのお父さんは神様??? だと書かれています）。ヨセフは大工さんでした。2. 天使が，夜も野で寝ずに働く羊飼いたちに，イエスが生まれたことを知らせました。3. 羊飼いたちは，「すごいニュース！」とドキドキしながら大喜びし，イエスに会いにやってきました。…>

降誕図が踏まえるのが当箇所であり，本展目玉のH. クレルク（Hendric de Clerck）「羊飼いの礼拝」を味わう基底となるものでした。

ところで，子どもの作品はその子の人格的分身ですから，皆で作品を観合う場合，厳正だが傷つけもする批評的態度よりも，よさを捜し尊厳を認める寛容的受け止めが大切となります（よさを見つけられる力も創造性の一部です）。附言すると，クラスメート間に友情・信頼関係を育む学級経営はそうした相互鑑賞を成立させる必須条件ですから大事です。話を戻しますが，今記したことは違いを越え理解し合うべき国際間にも言えることです。日本とキリスト教圏（一般には欧米）が平和な協調関係を築くべく双方の文化を知ることは価値ある方略の1つです。いみじくも『中学校学習指導要領』第6節美術には「美術を通じた国際理解を深めること」とあり，上述内容は日本からのアプローチの1つに捉えうると考えています。

鑑賞領域で今取り組もうとしているのは，美術を通じた国際理解を柱とし，聖書を想源とし未曾有の発展を遂げた西洋宗教画を系統的に理解するのに益すメソッドを開発することです。‘絵-テキスト’の往還を図り，かつ，1枚の絵に描かれた種々モチーフ（ex. 林檎・葡萄・百合・薔薇・魚・鷗・子羊・星・パン・ワイン・球・本・虹・剣…）を節点（node）とし，そこから他の絵へと続々リンクを張りながら，図像象徴の知見を多角的・重層的に得つつ，最終的には宗教画ネットワークなるイメージを造り上げられるようなプランを構築したく思います（塩入広樹君 [信州大院 2] のように鑑賞題材を Digital Game でプログラム化できたら凄いのでしょうが…）。さらに可能なら，受難とかを共通項とし，描写性豊かな J.S. バッハ（Johann Sebastian Bach）の諸曲と西洋宗教画を結ぶプランも練ろうとしています。

モチーフで絵と絵をリンクするというのは，1999年4月に始め，現在通算88回を数え，次回分準備中の，長野県カルチャーセンター講座「西洋絵画の愉しみ」でだんだん定まりました。それを‘キーワード鑑賞’とか‘ぐメソッド’と呼んでいます。或1つの語で様々な絵を関係づける手法は，例えば薔薇（若桑みどり『薔薇のイコノロジー』青土社），シャボン玉（森洋子『シャボン玉の図像学』未来社），髪（高橋裕子『世紀末の赤毛連盟-象徴としての髪-』岩波書店）と，美術史研究だとオーソドックスであり，鑑賞教育でも手応え・可能性を感じます。さて最後に本について。聖書は言うまでもなく必読書。柳宗玄・中森義宗編『キリスト教美術図典』吉川弘文館は変わらぬ座右の銘ですが，近年出された石井美樹子『聖母のルネサンス-マリアはどう描かれたか-』岩波書店も参考箇所豊富な本で，一読をお勧めします。表紙を飾る R. カンパン（Robert Campin）「メローデ祭壇画」は大好きな絵ですが，そこへ沢山の絵をくっつけるなら，かなり系統立った鑑賞題材ができるのではなかろうかと思い描いています。

しかし，牛歩遅々たるあり様。先行研究も定かでなく手探りで進めているような感じなので，皆様よりアドバイスを・ご指導賜りたく切に望む次第であります。皆様との意見交換・話を願う切磋商を望むと共に，どうかいろいろ教えてください。

石崎 和宏・王文純 著

『美術鑑賞学習における発達とレパトリーに関する研究』

風間書房 2006年11月刊行 ISBN: 4-7599-1595-8 価格 9,450(税込)

石崎 和宏(宇都宮大学)・王文純(博士(芸術学))

本書は、美術鑑賞にかかわる発達の特徴について、比較文化的視点から解明を進めて従来の発達理論を再考し、レパトリーの観点から新たな発達理論の構築を試み、さらにその発達の知見に基づいて鑑賞学習の支援ツールを開発し、有用性と課題を検証したものである。

本書の特徴として次の三点をあげたい。一つは、独自に調査方法を開発し、その国際調査分析から美術鑑賞にかかわる発達理論を再考している点、二つめは、発達段階論を補完する新たな理論としてレパトリー理論のモデルを独自に構造化している点、三つめは、レパトリー理論を活用して美術鑑賞学習の支援策を具体化し、その効果を検証している点である。

まず序章と第1章では、先行研究を再検討して鑑賞の定義を問い直し、鑑賞の発達研究方法の成果と課題を明確化するとともに、パーソンズ(Parsons,M.)とハウゼン(Housen,A.)の発達段階モデルを比較検討し、発達の研究方法の方向性を提起している。そして第2章では、パーソンズの発達段階モデルを指標にして美的感受性の発達を測定する方法を開発し、美術鑑賞の発達を再考しつつ、その方法の信頼性と妥当性を検討している。さらに第3章は、日本、台湾、米国での比較調査から、美術鑑賞の発達の特徴の変化や文化的な関係の解明を試みている。その結果、パーソンズの仮定した発達の指標のみでは十分に説明できない多面的な現象を指摘した。つまり、同じ発達段階に位置づけられる事例内でも、鑑賞行為そのものには多様な状況が認められ、単線的な発達段階論の限界を明らかにしている。

以上の考察をふまえ、本書では個人の発達状況における多様性を詳細に説明できるモデルとして、レパトリー理論を構造化し、その妥当性を検証している。第4章で、鑑賞スキルの観点と関連させた鑑賞レパトリーの理論的枠組みを提示し、それにかかわる課題や定義の問題を検討するとともに、発達段階の推移とレパトリーの関係性を考察している。特に累積するレパトリーや選択肢としてのレパトリー、そして複合型のレパトリーに関する概念は、従来の発達段階論での発達の特徴の変容に対して新たな解釈を加えるものである。本書では、最終的に第6章でレパトリー理論のモデル構造を明確化し、第7章でその妥当性を量的分析と質的分析の両面から考察し、レパトリー理論が鑑賞活動という構造化されにくい複雑な状況を説明する柔軟な発達モデルであることを検証している。

さらに、レパトリー理論を活用した美術鑑賞学習の支援策を具体化し、その効果を検証している。新たに構築したレパトリー理論に基づき、美術鑑賞におけるスキルを効果的に習得する学習ソフト『アート・リポーター』を独自に開発している。第5章で『アート・リポーター』の開発過程と成果、課題を検討し、第6章でソフトによる鑑賞文を分析して鑑賞レパトリーの構造を根拠づけるとともに、鑑賞文の分析基準としての活用策を具体化している。さらに第7章で、多様な鑑賞レパトリーのためのスキル習得に関する『アート・リポーター』の効果と課題を考察している。

なお、本書は平成18年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)による刊行である。

事務局より

平成18年度も残すところあと1ヶ月あまりとなりました。会員の皆様におかれましてはますますご活躍のことと存じます。

◆新入会員の紹介

安部 順子（神戸大学大学院総合人間科学研究科）、駒田 賢一（聖和大学）、
立川 泰史（東京学芸大学附属小金井小学校）、佐々木 達行（宮崎大学）、
三桝 正典（広島大学附属東雲中学校）、平野 英史（東京学芸大学大学院教育学研究科）、
澤本 芽（本山町立本山中学校）、石賀 直之（横浜国立大学教育人間科学部附属横浜小学校）

【平成19年、1月31日までに手続き完了】

◆住所変更の届け出のお願い

異動等により4月から住所が変わられる方々は、住所変更の届け出をお忘れにならないようお願いいたします。一昨年度より、郵送にかかる経費の節減をはかるため、事務局からの送付物は一部のものを除いて宅配業者のメール便を利用しております。そのため、郵便局に転送の手続きをさせていただいておりましたが、郵送物がお手元にお届けできません。ご面倒ですが、必ず下記宛にファックスまたはメールにて住所変更のご連絡をくださいますようお願いいたします。

住所変更等の連絡先 Fax：088-687-6636

E-Mail：yyamada@naruto-u.ac.jp

美術科教育学会事務局 会員管理担当 山田 芳明

◆学会費の納入の確認のお願い

これまでもお知らせしておりますが、昨年度末より事務局からの郵送物の宛名ラベル右下に、学会費の納入状況を明示させて頂いております。

なお、平成18年度までの会費が全て納入されている方は“0”になっています。また、既に次年度以降分までの会費を振り込んでしまわれている場合には、マイナス表示になっております。（例 - 8000：これはすでに19年度分までの会費を払っておられるということです）

会員の皆様には年度当初の会費納入をお願いしておりますが、平成17年度以前も含めて会費が未納の方々もいらっしゃいます。各自の納入状況表示をお確かめいただき、まだお振り込み頂いていない方につきましては、早急にお振り込みくださいますようお願い致します。

振り込みにあたっては、郵便局備え付けの青文字の用紙に下記の口座記号番号及び加入者名を記入してご利用ください。

学会費を滞納されておられる場合には、学会発表や論文投稿などができない場合がございます。さらに、学会費を2年以上滞納なさいますと強制的に退会扱いとなってしまいます。十分ご注意ください。

学会年会費 郵便振込先

口座記号番号： 01610-9-111229

加入者名： 美術科教育学会